

# 第2学年1組 生活科学習指導案

授業日 平成28年7月13日(水) 2校時  
授業者 附属新潟小学校 教諭 三星雄大  
会場 2年1組教室

## 1 単元名 おやさい絵本をかこう - いっしょに大きく... -

## 2 本単元の価値

本単元は、「小学校学習指導要領解説生活編」内容(7)、(9)目標(4)を受けて設定した。

### 内容(7)

動物を飼ったり植物を育てたりして、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心を持ち、また、それらは生命をもっていることや成長していることに気づき、生き物への親しみを持ち、大切にすることができるようにする。

### 内容(9)

自分自身の成長を振り返り、多くの人々の支えにより自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことをなどが分かり、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもつとともに、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活することができるようにする。

### 目標(4)

身近な人々、社会及び自然に関する活動の楽しさを味わうとともに、それらを通して気付いたことや楽しかったことなどについて、言葉、絵、動作、劇化などの方法により表現し、考えることができるようにする。

生活科では、働き掛ける対象への気づきだけではなく、自分自身への気づきへと質的に高まることを大切にしている。学習指導要領には次のような記載がある。

- ・生活科のどの内容においても、児童が対象と自分とのかかわりを深め、対象に気付くことで、そこに映し出される自分自身への気づきが生じる。
- ・自分自身への気づきは、内容(9)だけに限らず、生活科の全内容の中でとらえていくことができる。各内容との関連を意識し、年間を見通した計画的な学習活動を構想することが必要である。

自分自身への気づきへと質的に高めるために、単元全体の振り返りを国語の「お話のさくしゃになろう」(光村図書)と関連させる。この学習では、経験したことや想像したことなどから書く内容を決めて「はじめ・中・おわり」のまとまりのあるお話を書くことができることが目標である。「はじめ」を野菜の苗を植えたときに撮影した野菜の苗との2ショット場面、「おわり」を生長した野菜の苗との2ショット場面として書かせる。「中」は、書かためさせた「やさしいけんきゅうにつき」を基に自分で考えさせる。子どもは、野菜とのかかわりを想起し、様々な資質・能力が発揮される。具体的には次の通りである。

- ・野菜の生長…資質・能力 生①
- ・自分の行為…資質・能力 生①③ 道①
- ・自分の成長…資質・能力 生①③道①
- ・自分や野菜の気持ち…資質・能力 生①

お話を書かせることの価値は、生活科の目標(4)と関連する。目標(4)では、表現の価値について、思いや願いを表出させることと、表現によって思考を深めることの両面があることが示されて

いる。表現方法を工夫させることで、子どもの気付きを自覚させる有効な働き掛けになる。

### 3 本単元で目指す姿

私は、本単元において、**過去と現在の野菜と自分のかかわりを比較・関係付け、できるようになったことや分かるようになったことに気付く子ども**を目指す。具体的には、「最初は赤ちゃんだったトマト。今では、立派な大人になったよ。一人で大きくなったんじゃないよ。のどが渴いたら水をあげて、おなかがすいたら肥料をあげて、脇芽摘みもしたよ。最初は分からないことばかりだったけど、野菜の育て方がたくさん分かったよ。〇〇ちゃんありがとうってトマトも言っているよ」等と絵本に表現する姿

### 4 本単元で育む資質・能力

単元カード参照

### 5 指導計画 全6時間(180)

単元カード参照

### 6 指導の構想

子どもはこれまでに、「いっしょに大きく・・・」(生活)の単元で、野菜が育つ場所、変化の様子に気付いた。また、野菜は生命をもっていることや成長していることに気付いた。栽培活動を通して、野菜について多くのことに気付いた子どもは、野菜を大切に育てている。しかし、栽培活動を通して自分ができるようになったことや分かるようになったことには気付いていない。

また、「お話のさくしゃになろう」(国語)の単元で、お話を書くときには、「はじめ」「中」「おわり」で書くこととよいことをとらえている(C0)。

#### 働き掛け1

**世界に一つだけのオリジナル絵本を作ることを提案し、物語にどのようなことを書くとよいかを問う。**

見通しをもたせるための働き掛けである。

4月から朝の会で様々な物語を読み聞かせてきた。それらを提示して、本に対してどのような気持ちをもっているかを問う。子どもは、「読んでいて楽しくなれる」等と発言する。元々抱いていた物語に対する興味関心が高まった段階で、自分の野菜のことをまとめた世界に一つだけの物語を作って紹介することを提案する。子どもは、同時期に学習している「お話のさくしゃになろう」を想起し、野菜のお話を作りたいと願う。そして、誰に読んでほしいかを問い返す。子どもは、「友達に読んでほしい」「家の人に読んでほしい」等と願う。さらに、物語にどのようなことを書くとよいかを問う。そして、自分の考えをワークシートに記述させる。子どもは、「自分がしたことを書くとよい」「野菜がどのように大きくなってきたかを書くとよい」等と物語に書く視点を設定する。このような子どもに次のように働き掛ける。

#### 働き掛け2

**自分が育てている野菜についての事実を付箋に書かせ、事実から言えることを問う。**

野菜の物語の「中」を書くために必要な情報を収集させるための働き掛けである。

まず、自分が育てている野菜についての事実を問い、付箋に書かせる。このとき、「やさいけんきゅうにつき」を使わせて、事実を想起させる。子どもは、「初めて実ができた」等と自分が育てている野菜についての事実(生①知識や技能)を記述する。書いた付箋は、「すくすくチャート」に貼らせる。これは、中央部に矢印があり、右側と左側に分けて付箋を貼ることができるツールである。左

側には、野菜の変化について貼らせる。右側には、自分がしたことについて貼らせる。野菜の変化についての事実を書いた付箋を「すくすくチャート」に貼らせる。子どもは、**自分が育てている野菜についての事実を時系列で貼っていく（生②ツール活用能力，国③見方や考え方）。**

その後、自分が育てている野菜についての事実から言えることを問う。子どもは、「**最初は実がなかったけど実が大きくなって収穫できた**」等と**野菜の生長に気付く（生①知識や技能，生③見方や考え方）。**

#### 働き掛け3

**野菜の変化の理由を付箋に書かせる。**

野菜の変化と自分のお世話の関係に気付かせるための働き掛けである。

まず、「野菜は勝手に大きくなったのか」と問う。子どもは、自分がお世話をしたからだと答える。そのような子どもに、どのようなお世話をしてきたのかを問い返す。子どもは、水やり等具体的にしてお世話を発表する。そして、「野菜の生長のために自分がどのようなお世話をしたのか考えよう」という本時の学習課題を設定する。その後、野菜が大きくなるために行った自分のお世話を付箋に書かせる。書いた付箋は、「すくすくチャート」の右側に貼らせる。子どもは、**野菜の変化についての事実と対応するお世話を時系列で貼っていく（生②ツール活用能力，国③見方や考え方）。**

#### 働き掛け4

**野菜を育て始めたときの自分と今の自分を比べて言えることを問う。**

単元を通して自分ができるようになったことに気付かせるための働き掛けである。

できるようになったことや分かるようになったことに気付かせるためには、以前の自分と今の自分のとの比較から違いに気付かせる必要がある。まず、野菜を育て始めたときの自分と今の自分との違いを問う。そして、付箋に書かせる。子どもは、「**最初は、水やりを忘れてしまっていた。でも、実ができてからは毎日水やりができた**」等と**以前の自分と比べてできるようになったことを発表する（生①知識や技能，生③見方や考え方）。**また、「**野菜に命があるって気付いていなかったけど、自分と同じように命があるって分かった**」等と**分かるようになったことを発表する（生①道①知識や技能，生③見方や考え方）。**

#### 働き掛け5

**物語に書く内容を付箋の中から選択させ、理由を問う。**

物語の「中」に書く内容を判断させるための働き掛けである。

「すくすくチャート」に貼った付箋の中から2枚選ばせる。1枚は、自分が育てている野菜についての事実から言えることから選ばせる。もう1枚は、野菜を育て始めたときの自分と今の自分との違いの中から選ばせる。選ばせた後に理由を問う。子どもは、「**実が大きくなって収穫できた付箋を選んだのは、僕が頑張ってお世話をしたことが伝わるから**」等と根拠を説明する。

その後、物語の「中」と「おわり」を書かせる。物語を書くときには、これまでの野菜の育て方や他教科での学びを想起して、様々な資質・能力が発揮される。具体的には、野菜の生長（資質・能力 生①）、自分の行為（資質・能力 生①③ 道①）、できるようになったことや分かるようになったこと（資質・能力 生①③，道①）、自分や野菜の気持ち（資質・能力 生①）である。このようにすることで、**過去と現在の野菜と自分のかかわりを比較・関係付け、できるようになったことや分かるようになったことに気付く子ども（Cn）になる。**

## 7 本時の構想（本時3／6時間）

### (1) ねらい

過去の野菜と自分のかかわりと現在の野菜と自分のかかわりを比較・関係付け、自分の成長に気

付くことができる。

## (2) 主張(展開) 3Q (45分)

### このような子どもに (C0)

- ・自分が育てている野菜の色, 形, 大きさ等の目に見える特徴や変化に気付き, 愛着をもっている。
- ・野菜にも自分と同じ命があることをとらえている。
- ・「お話のさくしゃになろう」(国語)の単元で, お話を書くときには, 「はじめ」「中」「おわり」で書くとよいことをとらえている。

### このように働きかけると【働き掛け1-①】

- これまで読み聞かせた絵本を提示し, 絵本が好きな理由を問う。
  - ・説明「4月から皆さんに絵本を読み聞かせてきました。これは, 皆さんに読み聞かせてきた絵本です」
  - ・発問「皆さんは, 絵本を読んだり聞いたりしているとどのような気持ちになりますか」
    - ・補助発問「どうしてそのように思うのですか」
    - ・補助発問「みなさんはどうですか」
  - ・説明「先生も絵本が昔から好きでした。絵本は自分の知らない世界を教えてください。だから読んでいてワクワクします。ドキドキします。きっと絵本作家の人たちは, 読んでくれた人たちがこのような気持ちになってほしいと願って書いているのでしょうね」

### このようになり (C1-①)

- 絵本に対する興味関心を高める。
  - ・絵本を読むのが好きです。読んでいると楽しい気持ちになれるからです。
  - ・絵本を読むと時間を忘れてしまいます。それくらい好きです。

### このように働きかけると【働き掛け1-②】

- 世界に一つだけのオリジナル絵本を作ることを提案する。
  - ・説明「読んでワクワクするような世界に一つだけの絵本を皆さんも作ってみませんか。みんなが野菜をずっと育ててきましたね。みんなが育てている野菜の絵本です。『おやさいものがたり』です」
  - ・発問「つくった絵本を誰に読んでほしいですか」
  - ・発問「野菜の絵本を書くときに, 何を書くといいと思いますか」

### このようになり (C1-②)

- 物語にはどのようなことを書くとよいのかを考える。
  - ・楽しそうだ。お話を書いてみたい。
  - ・友達に読んでほしい。
  - ・家の人に読んでほしい。
  - ・野菜のことを書くといい。
  - ・自分がしたことを書くといい。
  - ・自分の気持ちを書くといい。

### このように働きかけると【働き掛け2-①】

- 自分が育てている野菜についての事実を問い, 付箋に書かせる。
  - ・指示「自分が育てている野菜はいつどのようになりましたか。やさいけんきゅうにつきを

読み返して付箋に書きましょう。書いた付箋は、『すくすくチャート』に貼りましょ  
う」

#### このようになり (G2-①)

- 自分の野菜がいつどのようになっていたかを付箋に書き、時系列で「すくすくチャート」に貼  
っていく。
  - ・ 6月30日、実が赤くなってきました。
  - ・ 7月4日、初めて収穫しました。
- ☆生①知識や技能  
☆生②ツール活用能力、国③見方や考え方

#### このように働き掛けると【働き掛け2-②】

- 自分が育てている野菜についての事実から言えることを問う。
- ・ 発問「たくさんの付箋が貼られましたね。最初の頃と今の野菜を比べると言えることはあ  
りますか」
- ・ 指示「付箋に書いて貼りましょう」

#### このようになり (G2-②)

- 比べて言えることを考える。
  - ・ 実が大きくなった。
  - ・ 葉っぱが大きくなった。
  - ・ 茎が太くなった。
- ☆生①知識や技能、生③見方や考え方

~~~~~ 本時ここから ~~~~~

#### このように働き掛けると【働き掛け3】

- 野菜の変化の理由を問う。
- ・ 発問「この2ヶ月で野菜が変わってきたことに気付きましたね。野菜は勝手に生長したの  
ですか」
- ・ 指示「自分がどのようなお世話をしたのか付箋に書いて『すくすくチャート』に貼りまし  
ょう」

#### このようになり (G3)

- 自分が行ったお世話を付箋に書き、「すくすくチャート」に貼る。
  - ・ 違います。毎日お世話をしました。
  - ・ 水やりをしました。
  - ・ 脇芽摘みをしました。
- ☆生②ツール活用能力、国③見方や考え方

#### このように働き掛けると【働き掛け4】

- 野菜を育て始めたときの自分と今の自分とを比べて言えることを問う。
- ・ 説明「野菜が生長するために皆さんは様々なことをしてきたのですね」
- ・ 発問「野菜を育て始めたときの自分と今の自分とを比べて言えることはありますか」
- ・ 補助発問「どうしてそのように考えるのですか」
- ・ 補助発問「〇〇さんは、～のように言っていますが、同じ考えの人はいますか」
- ・ 指示「比べて言えることを付箋に書きましょう」

### このようになり (C4)

- 野菜を育てることを通して、できるようになったことや分かるようになったことに気付く。
  - ・ 最初は、水やりを忘れてしまっていた。でも、実ができてからは毎日水やりができた。  
☆生①知識や技能, 生③見方や考え方
  - ・ 野菜に命があるって気付いていなかったけど、自分と同じように命があるって分かった。  
☆生①道①知識や技能, 生③見方や考え方

本時ここまで

### このように働き掛けると【働き掛け5-①】

- 絵本に書く内容を付箋の中から選択させ、理由を問う。
    - ・ 説明「絵本を書くために作ってきた『すくすくチャート』が完成しました。今日はお話を書いていきますよ」
    - ・ 指示「絵本を書くときにどの付箋のことを書きますか。『すくすくチャート』の中から2枚を選びましょう」
- ※1枚は、自分が育てている野菜についての事実から言えることから選ばせる。もう1枚は、野菜を育て始めたときの自分と今の自分との違いの中から選ばせる。

### このようになり (C5-①)

- 付箋を選んだ根拠を発表する。
  - ・ 実が大きくなって収穫できた付箋を選んだのは、僕が頑張ってお世話をしたことが伝わるから。

### このように働き掛けると【働き掛け5-②】

- 絵本の「中」と「おわり」を書かせる。
  - ・ 指示「自分が選んだ付箋を使って、絵本を書きましょう」

### このようになる (C5-②)

- 選んだ付箋を基に「おやさい絵本」を書く。
  - ・ 最初は赤ちゃんだったトマト。今では、立派な大人になったよ。一人で大きくなったんじゃないよ。のどが渴いたら水をあげて、おなかがすいたら肥料をあげて、脇芽摘みもしたよ。最初は分からないことばかりだったけど、野菜の育て方がたくさん分かったよ。○○ちゃんありがとうってトマトも言っているよ。

## 8 検証

### (1) 検証すること

- ① 構想した働き掛けにより、想定したC nになったか。
- ② 構想した働き掛けにより、想定した資質・能力を発揮することができたか。
- ③ 子どもは発揮した資質・能力を自覚することができたか。

### (2) 検証の方法

- ① 働き掛け5を受けて、絵本の記述から検証する。  
働き掛け5において、生①生③、道①、生①、道①生③のような資質・能力を発揮している。
- ② 働き掛け4を受けて、あああのような資質・能力を発揮しているかを発言やつぶやき、付箋の記述から判断する。
- ③ ワークシートの記述、物語の記述、発言、VTR、「やさいうた」、「やさいけんきゅうにつき」の記述から検証する。